

肢体しょうがい学生の避難について

【経緯と目的】授業再開（5/9～）にあわせて避難マニュアルを作成し、その通り避難ができるか下肢しょうがいのある学生 13 名に確認したところ、電動車いすの学生 B・C（以下詳細）がマニュアル通りに避難が難しい状況が聞き取りにてわかった。そこで、しょうがい学生と話し合いを進めるなかで、しょうがい学生自身が意識をして、自身が周囲とともに安全に避難するためにはどうするか、減災ソーシャルワーク授業担当の吉村千恵先生のアドバイスのもと、しょうがい学生 B、C と今回の授業に関心を示した A の 3 名をモデルとして個別の避難計画書作成を行うに至った。

【対象】しょうがい学生支援サポーターを利用しているしょうがい学生（電動車いすを利用）の学生 3 名と減災ソーシャルワーク履修生とサポーター

【方法】減災ソーシャルワークの履修生がしょうがい学生に聴きとり

- ・地震の際どうだったか
- ・避難計画に必要な項目作成

地震、火事、洪水、噴火などパターンに応じた避難を検討。また誰に連絡をとるか、言語しょうがいがある場合はシートを持っておくなど、避難においてどういう道具が必要かなどを検討

【グループ】吉村先生が調整し 3 グループを作成

しょうがい学生（車いす種類）	受講生	サポーター	初回集合日
A（手動車いす）	3 名	1 名	6 月 9 日（木）5 限目
B（リクライニング付電動車いす）	3 名	1 名	6 月 10 日（金）5 限目
C（リクライニング付電動車いす）	3 名	2 名	6 月 15 日（水）4 限目

※初回実施場所は、しょうがい学生支援室。支援室職員（三島・権藤）も参加

【授業計画】

- ・授業の一環のため、初回以降はそれぞれが集まって計画を作成。
- ・7 月半ばに関係者に集ってもらい避難訓練を実施…総務課やインクルーシブ学生支援センター職員ほか、上記サポーター以外にも参加を呼びかける
- ・7 月末には避難計画が完成予定。
- ・避難計画のワークシート作成後は、上記しょうがい学生以外にも使用し、今後の避難時において活用。

【実施内容】

○各初回集合日に本震の際の様子やしょうがい状況などの確認を行う。

しょうがい学生 B、C が避難には担架が必要と再確認。しょうがい学生支援室にて担架の購入をすすめる。

○6 月 17 日（金）5 限目

A 班が各棟の階段幅を知るために、実際に 7 号館（外階段）、11 号館、12 号館、学生会館に行き、車いすの昇り降りを実施。何人が手伝ったらスムーズか、男女の割合や車いすの持つ場所などを確認。また 11 号館の階段は、3 か所あるが場所によって幅や踊り場の形状が異なることを発見。11 号館で被災したらどの階段を使って避難したら降りやすいかなどを確認した。今後、個別避難計画に入れ込む予定。



7 号館外階段



11 号館出入口側階段

※Aさんは普段は電動アシスト付車いすを使っていたが、震災後余震が続くため、万が一のことも考え手動の車いすを利用している。今回は手動の車いすを4～5名で階段昇降を行った。

○6 月 21 日（火）発注していた担架（8 個）が届く。担架を用いた避難訓練も検討。

